

競技役員長（レフェリー）から競技審判上の確認と連絡

本大会は、平成 30 年度（公財）日本バドミントン協会が定める競技規則、大会運営規程、公認審判員規程にのっとり厳正に運営します。特に、以下のことに注意して下さい。

<競技規則>

1 サービス（第 9 条）

9-1-(1) サーバーとレシーバーがそれぞれの態勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。

9-1-(2) サーバーのラケットヘッドの後方への動きの完了した時点がサービスの始まりで、サーバーのラケットヘッドの前方への初めての動きを不当に遅らせてはならない。

2 プレーの継続、不品行な振舞い、罰則（第 16 条）

16-2 インターバル

(1) すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが 11 点になったとき、60 秒を超えないインターバルを認める。

(2) 第 1 ゲームと第 2 ゲームの間、第 2 ゲームと第 3 ゲームの間に 120 秒を超えないインターバルを認める。

16-3 プレーの中断 主審が認めた場合あるいは競技役員長（レフェリー）が主審に指示した場合。

16-4 プレーの遅延 プレーヤーはどんなことがあっても、体力や息切れを回復できるように、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはならない。

16-5 アドバイスとコートを離れることに関して

(1) シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ（試合）中、アドバイスを受けることができる。（大会運営規程第 25 条参照）

(2) プレーヤーはインターバルを除き、マッチ（試合）中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。

16-7 違反に対する処置

16-7-(1)①警告 → 16-7-(1)②フォルト → 16-7(2)フォルト → 失格

<大会運営規程>

3 服装については、第 23 条によるものとする。また、社会人・大学生は所属名、高校生は学校名、小中学生は所属名と氏名の背面表示またはゼッケンをすること。その際、1 文字の大きさは 6 ～ 10 cm の範囲内とし、文字列全体で横 30 cm 以内とする。（第 24 条参照）

4 個人戦において試合を棄権した選手は、それより後の同大会でエントリーしている種目全てにおいて出場できない。但しレフェリーによって認められた場合はその限りではない。

5 審判員の判定に対して疑問がある場合は、次のサービスがなされる前に、個人戦ではプレーヤーが、団体戦の場合は当該プレーヤーと監督に限り「質問」が認められる。（第 36 条）

6 競技進行の都合で、試合時間やコートを変更する場合がある。（付録 2-1 参照）

7 表彰式には原則として第 1 位～第 3 位まで、競技終了後の閉会式で行うものとするが、帰郷時間、交通事情等でやむを得ない理由がある場合、閉会式前に授与を行う場合がある。しかし、少なくとも第 2 位までは開催地に配慮して閉会式に参加することを義務づける。（付録 1 参照）

<公認審判員規程>

8 試合中の注意事項（第 3 条第 5 項）

(6) コーチは、マッチ（試合）にふさわしい服装でのぞむこと（長ズボン、ポロシャツ等、但しレフェリー判断）。また、許可されたインターバル（上記 16-2）の間を除き、指定された椅子に着席するものとし、マッチ（試合）中、コートのそばに立ってはいけなく、モバイル機器の使用も禁止する。

(8) マッチ（試合）中にケガや事故が生じた場合は、主審の判断によりマッチ（試合）を中断します。もし必要ならば競技役員長（レフェリー）を呼び、その判断に従うこと。

(9) マッチ（試合）中のコートまたはコート周辺でプレーヤーの携帯電話が鳴った時は不品行な振舞い（同 16-6）と見なし、その違反には罰則（同 16-7）が適用される。